

利用者誰もが主役になれる、杜の都のシンボルを創造します

- 設計の理念と考え -

広瀬川の段丘崖を望む橋からの眺望の軸と、国際センター駅を挟んで南北に連なる、歴史と文化の軸の交点に位置する計画地。古くは、仙台城が広瀬川を掘りとして見立て、大きな高低差を利用し、本丸をはじめとする城郭機能を広瀬川西側に築いてきました。「川の彼岸」としての段丘崖が仙台のまちにおける広瀬川の強い境界、意味をシンボライズしています。

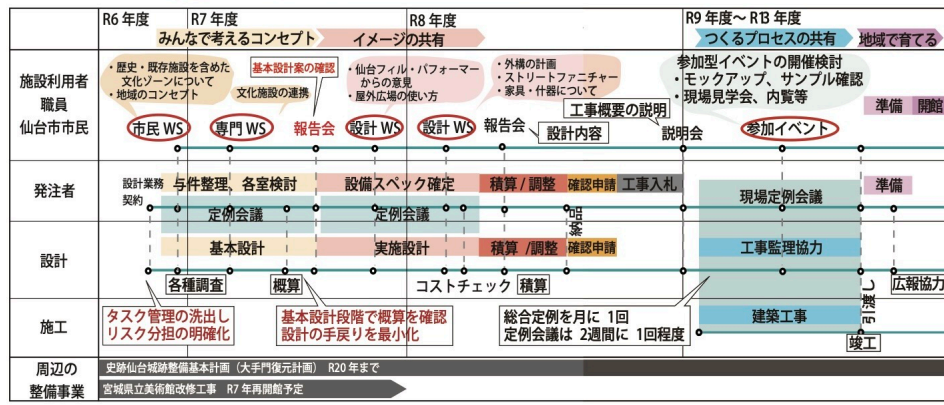
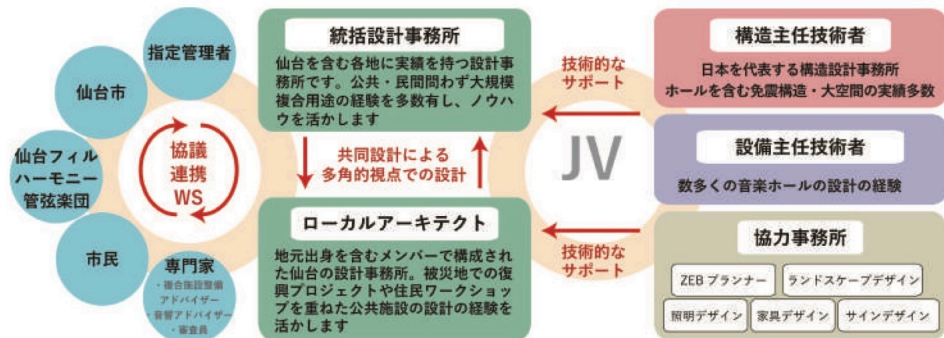
我々は、音楽ホールと震災メモリアル拠点を中心とする施設でありながら、箱ではなくランドスケープをつくることで、地形の流れ、歴史の流れ、また人々の流れを可視化するような建築がふさわしいと考えました。広瀬川の美しさと親しみやすさを特徴づけている蛇行する流れ、ふくらみのある河川敷のカーブを建築のモチーフとする事で、地形がせり上がったような自然な景観の一助となりつつ、駅前からは、広場の賑わいがそのまま屋内に連続していくような透明感のある場をもたらします。複合施設として建物内側からの活動のあふれ出しも同様です。

建物内外の境界や複合施設の諸機能の区別を意識することなく、芸術・文化に触れることの出来る場であってほしいと考えます。高度なスペックを有する専門施設でありながら、目的地でもあり通り抜けの通過点でもある、非日常の裾野を広げるような施設を目指します。震災メモリアル拠点として期待されている役割も、広く市民や社会に災害文化を定着させていく事であり、非日常の災害を日常的・主体的に浸透させていく使命に他ならないと考えます。

柔軟性の高い空間形式と開かれた設計プロセスで、多岐にわたる設計条件を統合します

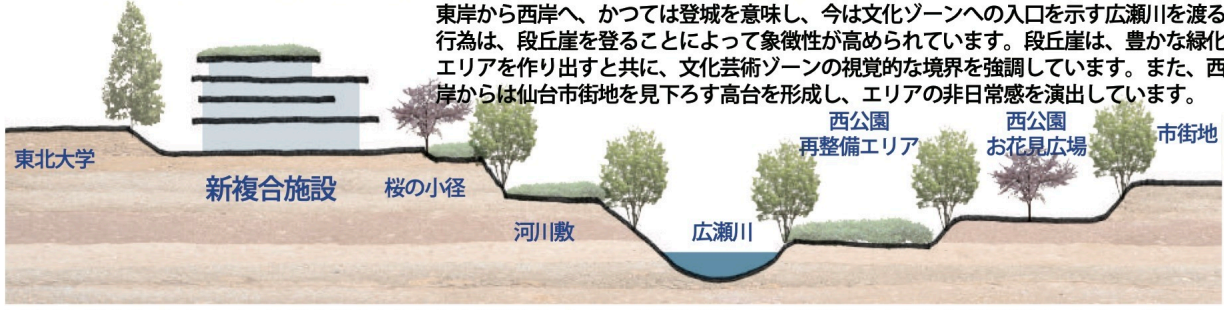
- 設計を進める上で特に留意をする事 -

本複合施設において、文化芸術の育成サイクルを構築する事を目標とします。様々な市民や専門家等との意見交換等を行い、発展・修正しながら事業を進めます。そのために、柔軟性の高い空間形式を提示し、自由度を確保します。設計チームは七ヶ浜町、名取市など震災復興関連の設計業務でWS等をおこなっているローカルアーキテクトを含み、発注側関係者との密な連絡が可能です。その上で、免震のホール建築も含む大空間・公共施設の実績を多数有する体制で臨みます。そしてチーム一丸となって、敷地周囲の動線計画・エリアマネジメントにも視野を広げ、関係者と共に新しい複合施設を次世代のまちづくりに繋げていきます。



専門家WS、利用者WSなどを通じて確実な意見の拾い上げを行います。市民はもちろんのこと専門家、周辺施設管理者、仙台フィルをはじめとする演者など多くの関係者、ステークホルダーと適切なコミュニケーションを図り、仙台フィルをはじめとする課題を解決します。また、円滑な業務遂行のため、手順や課題の見える化を行い、基本設計時の概算建設費の精度を高めるなど、手戻りのない業務を遂行します。

流れ、出会い、浸透する 仙台文化発信のみなもと

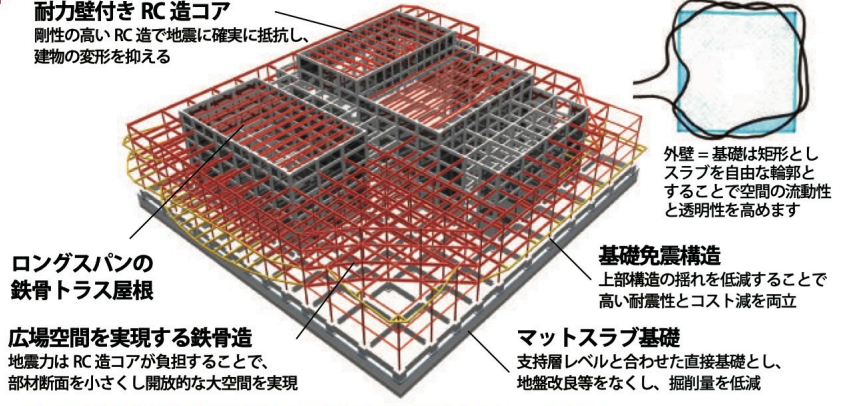


下流の歴史文化ゾーンから、東北大学を中心とする学術文化ゾーン、新複合施設、県立美術館を中心とする芸術文化ゾーン、そして広瀬川の親水エリアを目指すゾーンの重なりが浮か見え、本計画の役割が、多様な文化ゾーンの要として浮かび上がります。広瀬川を囲み、西公園、本敷地、国際センター、仙臺緑彩館などの一連のエリアは歩行者ネットワークを形成し、仙台エリアの日常的なレクリエーションスペースを作り出し、ジャズフェスティバル、七夕、花見といった多彩なイベントも開催されています。計画敷地では、そうした市民の憩いのスペースの拡張、充実を実現する機能および外部空間が求められます。

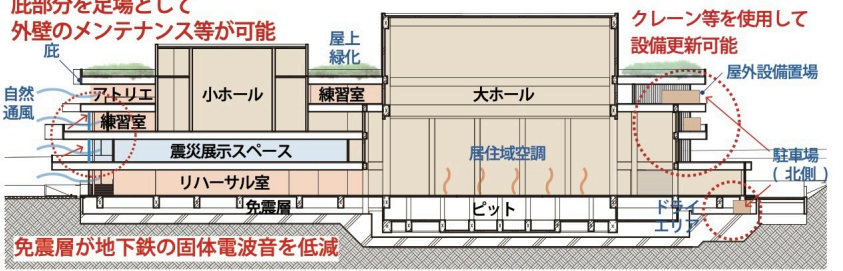
基礎免震構造の採用により、高い安全性とローコストを両立し、新しい広場として開放的な建築を実現します

- コスト縮減に関する提案 / 将来の大規模改修を想定した設計上の配慮 -

- 基礎部分に建物の長周期化と減衰性能を高める免震装置を配置した構造を採用し、大地震に対して構造体の継続使用に加え、上部構造の揺れを大きく低減することで、内装材・設備の破損や什器の転倒などを抑え、人命確保・補修費用の削減を図ります。災害時の地域拠点として信頼性の高い施設を実現します。地下鉄の個体伝搬音にも免震で対応します。
- 上部構造は、大ホール・小ホール部を剛性の高いRC造コアとすることで免震構造の効果を高め、外周部はロングスパンに有利な鉄骨造とすることで、ロビーまわりなどの開放的な空間を実現します。ホール部以外耐震壁を最小限に抑えられ、将来の改修の制約を少なくできます。
- 上部構造の揺れを低減することで、ホール部分など大空間の高重量の天井材や設備の落下リスクを抑え、安全を確保し下地材の減に繋がります。
- ホール以外を鉄骨造とし工期を短縮させ、工事費の削減に繋がります。
- 本敷地は支持層が傾斜しており、設備ピットを活用した免震層により基礎下レベルと支持層レベルを合わせて合理的な計画とすることで、支持層までの地盤改良などのコストを削減します。
- 免震構造により、隣接する地下鉄の個体伝搬音の影響も低減可能です。



- 避難安全検証法による防災計画の策定を行います。防排煙設備や防火区画等の合理化により、安全安心でありながらイニシャルコスト縮減・大規模修繕時の負担減に配慮します。
- 建物北側の駐車場と免震層ドライエリアは将来の改修工事ヤードとなり、地階設備の更新動線としても最適で、過剰な仮設計画 / コストを抑制します。外周の庇は改修・更新時の足場として活用します。



エリア	室名	面積 (m ²)
ホール	大ホール	4,150
	小ホール	595
	その他	4,085
文化芸術	リハーサル室	1,100
	練習室、制作工房諸室	1,475
	練習エリア	725
災害文化	展示スペース	700
	交流連携スペース	460
	ゲートウェイスペース	240
広場	交流ロビー等	1,560
	レストラン・カフェ	480
	クワイエットスペース	65
運営エリア	運営諸室	1,200
	その他諸室	1,000
その他	EV、階段、WC、廊下、機械室等	12,545
延床面積合計(概算)		31,500

工種	金額 (千円)	割合	
直接工事	直接仮設	280,000	1.0%
	土工	1,150,000	4.3%
	建築	320,000	1.2%
	躯体工事	6,500,000	24.1%
	仕上工事	4,900,000	18.1%
	昇降機	240,000	0.9%
	電気設備工事	2,200,000	8.1%
	機械設備工事	2,600,000	9.6%
	舞台機構工事	1,600,000	5.9%
	舞台照明工事	920,000	3.4%
共通費	舞台音響工事	750,000	2.8%
	その他工事	1,000,000	3.7%
	共通仮設費	900,000	3.3%
現場管理費	現場管理費	1,400,000	5.2%
	一般管理費	2,200,000	8.1%
消費税	2,700,000		
総計	29,700,000	100%	

平面自由度の高さと、免震を採用した無駄のない空間構成を両立し、適切な施設規模と建設費の抑制を目標とします。

整理番号